





# 昭和六十一年度採用 新入巫女研修教育

— 応募者二十名の中より選ばれた五名 —



ら二十名の巫女研修教育が四月四日から十二日まで九月四日まで、本殿に於て就任報告会を行なった。この研修教育は、本社の大社巫女が持つべき「基本的な知識並びに作法」を研修の目的として、入社後直ちに実施しているものである。

本年度採用の巫女五名の研修教育が四月四日から十二日まで九月四日まで、本殿に於て就任報告会を行なった。この研修教育は、本社の大社巫女が持つべき「基本的な知識並びに作法」を研修の目的として、入社後直ちに実施しているものである。

報電話局の栗崎正也氏を特別講師に迎え「電話応待作法」について講習をしていただいた。午後からは宗像市在住の元アナウンサー平嶋加代子さんを講師に、「言葉の正しい話し方」についての講習があり、研修教育の全課程を終了した。

「守札」と授与品の意義並びに解説を午前中に、午後より「神社作法と解説」を昨日同様行なう。

第六日目 午前中に「来客応待作法」を当社嘱託、南坊流の小方百枝師匠により講話・実技指導。午後は「社頭応待作法」の講話。

### 王子神社祭

去る四月三日、当大社の境外摂社のひとつである王子神社の春祭りが斎行された。

最終日の十二日(土)には、当大社中津宮に参拝、中津宮を掃拝し、市郡内の社寺、名所、旧跡の参拝見学を行なわれ、一名を除き当大社の氏子の子女であるが、今日まで筑前大社の中津宮への参拝経験者は皆無であり、地元神社並びに名所旧跡についてもあまり認識が無く、郷土意識の醸成を改めて痛感させられた。これは現代の子供達に、余暇時間を戸外で過ごす余裕の少なさに起因するのかもしれない。

本年採用の巫女氏名は左記の通り、新入の巫女(一)を主教材に、当大社の「巫女の御造営」等のビデオ、当大社発行の「家庭の祭り」等を副教材として実施された。受講生一同は当初、各講義担当の職員から聞かされる神社用語と作法(一)内は出身高校

### 〔祭典案内〕

#### 沖津宮現地大祭

来る五月二十七日、筑前沖ノ島鎮座宗像大社沖津宮において日本海海戦を記念し、恒例の国家鎮護現地大祭を斎行致しますので、参拝希望の方は御連絡下さい。

一、参拝日程  
1 五月二十六日 月曜日  
午後六時までに中津宮(筑前大島)に到着し届ける事。受付後宵宮祭に参列する事。  
2 五月二十七日 火曜日  
午前六時大島出発。午前九時沖ノ島到着、直ちに海に下り、午前九時祭典。午後一時沖ノ島出発。同四時大島到着、解散。  
3 渡海船(大島ノ神湊開)  
大島発午後四時二十分、同六時。  
4 当日荒天等のため渡島不可能の場合は、大島の沖津宮遥拝所に於て祭典を斎行致します。

一、要項  
1 参拝者は沖津宮奉賛会費として一名八千円をお納め願います。  
2 五月二十六日は大島にて斎泊。宿泊所、食事(弁当)は各自で御手配下さい。  
3 乗船者数に制限がありますので、参拝希望の方々の内より当社の渡島は関係筋の通達によりお断り致します。  
4 長時間の乗船に堪えられない方や健康状態が良好でない方は、御遠慮願います。  
5 参拝申込書、心得、要項等を用意しておりますので、返信用封筒の上左記宛御申込み下さい。

一、申込先  
宗像郡 玄海町 田島  
宗像大社事務所 儀式課行  
電話(〇九四〇)六一三一三二一  
八二一三三五

### 神郡社寺めぐり 承福寺

(玄海町上八)

当大社より鐘崎に向つて七〇に、宗像大宮司氏國約七キロ走ると、上八(この家の占部越前守安延が、うじょう)と呼ぶ小部落に出る。この右折しさらに約一キロ登ると「承福寺」がある。境内からの展望はすばらしく、眼下に田畑の緑を通し玄界灘を見渡せ、神島、草嶺半島、勝島、大島が目に入る。

四月はじめの春うららかな午後、裏山に湯川山がひかえる承福寺に参拝した。この宗像郡は大徳寺派の末寺で安延山と号し、釈迦牟尼を本尊に、左右に文珠菩薩・普賢菩薩を脇侍として祀つて入る。山門もすっきりとした庭園が広がると、樓門・鐘樓の影も彩りかにかいと黒のコントラストで、静寂な美しさに心を和ませられた。

応安六年(一三七三)當時時界に重きなした大応國師より三代目の法孫、勅諭正統大祖月庵宗光禪師が開堂説法。故に開山と、宗像社僧高僧法橋安延大徳の開創と、由緒がある。

この寺は、宗像家最後の頭領である第七十九代の大宮司氏貞(一五四五—一五八七)の墓所、乙尾(お塔)としても有名である。戦国時代は各地が戦乱の場と化し、神郡宗像にもその波及が及んで、氏貞は宗像勢を率いて、豊後の雄大友勢の外敵と攻戦中に病に倒れ、あえいな最後をとげた。夜中潜かに遺骸を行籠に納め、武將占部右衛門が命を賭し神郡宗像を死守された氏貞公の偉業が、今あまためでしのばれるのである。

承福寺は文明二年(一四



宗像郡 玄海町 田島 宗像大社事務所 儀式課行

## 感謝の便り

当大社では将来の日本を背負って立つべき児童や生徒が、情緒豊かな、心温かい人間として、又真の日本人として世界にはばたいていくことを願って、宗像大社奨学金の支給、或いは図書寄贈、各種行事への協賛等を行っているが、此の度、奨学金受給生からのお札の手紙や受賞のお札が寄せられたり、PTA新聞での報告がなされたりした。ここに掲載いたします。

た。また幸い希望の大学へも進学することができました。このことを三年間の感謝をこめてご報告いたします。

今はまだ有頂天ですけれども、思うにこれから知れる当のスタートにもかかわらず、来に向かっていたかと思えます。

感謝の気持ちを言葉で伝えることはないので、美辞麗句は苦手です、どうぞ簡単にしか書けません。本当に三年間、ありがとうございました。

谷口昌子さんより

ごきげんいかがですか。私は三年間奨学金をいただいた、福岡高校の谷口です。どうもありがとうございました。

今度高校を卒業して、栃木県にある自治医科大学へ進学させていただきます。しっかりとがんばって福岡に帰ってきます。

三年間本当にありがとうございました。ごきげんいかがですか。

宗像市朝町  
谷口昌子さんより

宗像市朝町  
谷口昌子さんより

宗像市朝町  
谷口昌子さんより

宗像市朝町  
谷口昌子さんより

宗像市朝町  
谷口昌子さんより



山頭火追悼詩碑と二鶏句碑

神湊隣船寺に建立



三月二十九日、桜花ほるぶ中詩、句碑の除幕式が行われた。この二つの碑は、隣船寺の總代としておられる郷土史家の吉武謙一氏を中心となられ、隣船寺に縁の深かった「種田山頭火」と、郷土出身の俳人「中野二鶏」の文名を称え建立されたものである。

種田山頭火は、宗像郡玄海町神湊の種田隣船寺を度々訪れている。隣船寺の元住職故田代宗俊和尚とは肝胆相照らす仲で、山口県防府市生れの人頭火をして「心のふるさと」は隣船寺にあり」と言われたほど深い親交があった。隣船寺には、山頭火生前の唯一自筆の句碑があり、「松はみな枝垂れて南無観世音（昭和八年建立）と刻まれている。

山頭火追悼詩碑の碑文は、「其中一人清貧を守り、無辺の風光、家珍を蔵す、縁に随いて安住す山頭火、飄（ひょう）に真に入して草終（つひ）に真に入る」と、昭和十五年十月、山頭火の死を聞かされた宗俊和尚が詠まれた漢詩である。この追悼碑の書は宗俊和尚の俳友で、剣道九段居士の小城謙三氏（北九州市在住）の筆による。

句碑は神湊出身の俳人中野二鶏氏が、帰郷のときに心のやすらぎと、母への思い出を心に浮かべてよんだ。母のふところ夕鳥島を刻んだものである。それぞれ緑泥岩と玄武岩で造られ、黒い光沢が美しく、

宗俊和尚は、大正六年から二十八年間、同寺住職を務められ昭和四十年、八十八歳でその生涯をとじられるまで「日曜学校」を開き、子供達を教養される一方、漢詩、書画などにも通じ、その道の師と仰がれたユニークな人柄で北九州一円に知られた名僧であった。「宗」の字は、宗像郡に由来し、除幕式には吉武謙一氏を始め、宗俊和尚をしのぶ地元の人々多数が参列し、思い出話に花が咲き、この日は楽しい一刻を過ごした。

福岡、北九州市のベットのタウンとして自覚し発展を遂げている宗像市は、住宅開発により著しい人口増を加え、日の中学校・自由ヶ丘中学校と相対して新設された。

大島の春だより ー子牛がつぎつぎと生れるー 福岡県最大の島、筑前大島の牧場で、今年一月より三月末までに、子牛四十九頭が生れ、うらかな春の日の中、親牛と共にのんびりと牧草を食べている。同島は、行政区では宗像郡大島村となり、同村の地産産業振興対策事業の一つとして、黒田藩時代からの牧場の伝統を生かして、村営牧場を昭和四十五年に開設。最初は七頭の黒牛と一七メートルに連なる尾根から麓にかけて広がる面積は新旧合わせて約百二十ヘクタール程である。同牧場の経営も順調に進み、頭数は昭和五十年には二百五十頭、六十年には三百五十頭と年々増え続けている。出荷頭数は、初出荷の昭和五十八年度には四十頭だったのが、五十九年度には八十四頭にまで伸び、今年度は目標の百頭達成が実現できそうである。同牧場では昨年夏頃の種牛を新しく購入、繁殖力も飛躍的に伸び、今年の一月初めに生れた子牛は、一月に十二頭、二月に十五頭、三月に二十頭で、あと十頭近くの産卵が予定されている。

大島村は漁業を中心とした島だけに、村営牧場は閑漁期の漁民や主婦の雇用を帯び、「お年玉」としてプレゼントしている。同牧場担当のスタッフ一同は、日本一の牧場を目指して日夜頑張っている。 三月十一日、新出光石油株式会社 三月十八日、ソビエト留学生並東海大学関係者来社 三月十九日、松尾神社役員会議 三月二十日、宗像大社責任役員会議 福岡県消防学校研修生二十七日名参拝 二月二十一日、泉靈殿通拜式 出光タナカ松寿丸II 起工安全祈願祭、参列 三菱重工業船橋造船所所長六尾和昭氏外二名 三月二十三日、田島地区連合役員会 三月二十四日、北海道野野町々議会議見視察団七名来社 三月二十五日、宗像大社氏子会議 三月二十六日、宗像警察署防犯課長能本氏外一名参拝 三月二十八日、出光興産株式会社 社長出光昭介氏代理松本益雄氏中国産白皮松二木献木 出光興産株式会社出張所 高根氏並みつば会九名参拝 三月二十九日、福岡県農業試験場園芸研究所々長吉武貞敏氏外二三名参拝 地元総代理並協力会春季大祭準備会 三月三十日、宗像大社菊花会理事會 三月三十一日、春季大祭総社地主祭、宵宮祭

インカの響き

南米の音楽に魅せられて

八回に亘ってアンデスの民族音楽を綴ってきましたが、こゝで名曲をいくつか紹介します。「太陽の乙女たち」

「太陽の乙女たち」 インカ時代、太陽神を祀る神殿に仕えていた巫女たちをテーマにした作曲です。約五十年前前に作曲されましたが、インカ時代からの伝承曲です。ケーナを中心とした器楽演奏曲ですが、時として歌われる事もあります。

「コンドルは飛んで行く」 この曲のメロディーを知らない人はない程の名曲です。一九一三年、民族音楽の研究者であったダニエル・アロミニアス・

ロブレス（ベル）がサルスエラの中の一曲として発表したものです。一九七〇年にサイモンとガーファンクルの演唱により世界的に大ヒットしました。

「花祭り」 一九四三年、エドモンド・サルデル（アルゼンチン）と云うギター奏者の作曲です。谷間の村々マウカアの人々が、ケーナによる喜びを楽しく歌った様子を表現しています。日本では最初インペット・ジローのシャソン曲として有名になりました。

以上三曲がアンデスを代表する名曲です。

アンデスの響をかぶった山々に根を発した民族の偉大な力、荒々しい高原、峡谷と平原、これらが何千年にも亘る文化を育み、音楽と踊りの豊かな遺産を築き上げてきました。アンデスにはまだまだ数多くの名曲が残されています。

三月四日、大島中学校で日本と南米の音楽について講話しました。 まずは雅楽と題して、鳳笙、箏、龍笛とそれぞれその音を生徒に聴いてもらいました。その中で、楽器のもつ特色、神社祭典に用いられる音の基音、更にシルクロードへと夢をさせました。

次にアンデスへと話は移り、生徒全員にケーナ、シルク、チャラソ等の楽器に触れさせてもらいました。はじめて見る楽器、はじめて手にする楽器、そして文化祭での演奏を始め、ボ

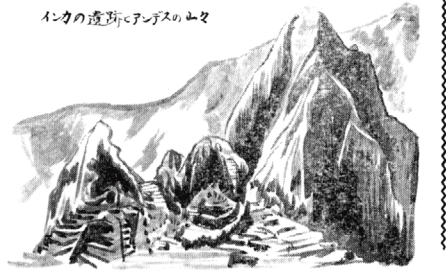
務められ昭和四十年、八十八歳でその生涯をとじられるまで「日曜学校」を開き、子供達を教養される一方、漢詩、書画などにも通じ、その道の師と仰がれたユニークな人柄で北九州一円に知られた名僧であった。「宗」の字は、宗像郡に由来し、除幕式には吉武謙一氏を始め、宗俊和尚をしのぶ地元の人々多数が参列し、思い出話に花が咲き、この日は楽しい一刻を過ごした。

ピカピカの新社舎 ー河東中学校開校ー 福岡、北九州市のベットのタウンとして自覚し発展を遂げている宗像市は、住宅開発により著しい人口増を加え、日の中学校・自由ヶ丘中学校と相対して新設された。

大島の春だより ー子牛がつぎつぎと生れるー 福岡県最大の島、筑前大島の牧場で、今年一月より三月末までに、子牛四十九頭が生れ、うらかな春の日の中、親牛と共にのんびりと牧草を食べている。同島は、行政区では宗像郡大島村となり、同村の地産産業振興対策事業の一つとして、黒田藩時代からの牧場の伝統を生かして、村営牧場を昭和四十五年に開設。最初は七頭の黒牛と一七メートルに連なる尾根から麓にかけて広がる面積は新旧合わせて約百二十ヘクタール程である。

大島村は漁業を中心とした島だけに、村営牧場は閑漁期の漁民や主婦の雇用を帯び、「お年玉」としてプレゼントしている。同牧場担当のスタッフ一同は、日本一の牧場を目指して日夜頑張っている。 三月十一日、新出光石油株式会社 三月十八日、ソビエト留学生並東海大学関係者来社 三月十九日、松尾神社役員会議 三月二十日、宗像大社責任役員会議 福岡県消防学校研修生二十七日名参拝 二月二十一日、泉靈殿通拜式 出光タナカ松寿丸II 起工安全祈願祭、参列 三菱重工業船橋造船所所長六尾和昭氏外二名 三月二十三日、田島地区連合役員会 三月二十四日、北海道野野町々議会議見視察団七名来社 三月二十五日、宗像大社氏子会議 三月二十六日、宗像警察署防犯課長能本氏外一名参拝 三月二十八日、出光興産株式会社 社長出光昭介氏代理松本益雄氏中国産白皮松二木献木 出光興産株式会社出張所 高根氏並みつば会九名参拝 三月二十九日、福岡県農業試験場園芸研究所々長吉武貞敏氏外二三名参拝 地元総代理並協力会春季大祭準備会 三月三十日、宗像大社菊花会理事會 三月三十一日、春季大祭総社地主祭、宵宮祭

新入社員五十三名参拝 三月十二日、アポロサービ又群馬商事三名参拝 三月十三日、宗像警察署次長森永三夫氏着任挨拶の為来社 許斐氏連氏外一名参拝 白山比咩神社権持宣寺木氏参拝 三月十五日、月次祭 福岡労働局局長寺内弘光氏外三名参拝 定例職員会議 三月十六日、地元責任役員研修旅行（十九日迄） 三月十七日、奉納盆会役員会 三月十八日、ソビエト留学生並東海大学関係者来社 三月十九日、松尾神社役員会議 三月二十日、宗像大社責任役員会議 福岡県消防学校研修生二十七日名参拝 二月二十一日、泉靈殿通拜式 出光タナカ松寿丸II 起工安全祈願祭、参列 三菱重工業船橋造船所所長六尾和昭氏外二名 三月二十三日、田島地区連合役員会 三月二十四日、北海道野野町々議会議見視察団七名来社 三月二十五日、宗像大社氏子会議 三月二十六日、宗像警察署防犯課長能本氏外一名参拝 三月二十八日、出光興産株式会社 社長出光昭介氏代理松本益雄氏中国産白皮松二木献木 出光興産株式会社出張所 高根氏並みつば会九名参拝 三月二十九日、福岡県農業試験場園芸研究所々長吉武貞敏氏外二三名参拝 地元総代理並協力会春季大祭準備会 三月三十日、宗像大社菊花会理事會 三月三十一日、春季大祭総社地主祭、宵宮祭

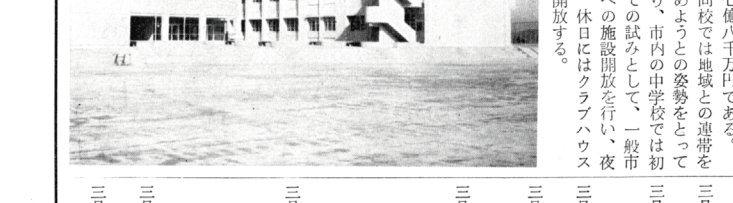


インカの遺跡、アンデスの山々

た、今春も宗像市城西ヶ丘に河東中学校（今村昭典校長、生徒数四百一十一人）が開校し、四月五日新校舎で、二、三年生の生徒や新任の先生達が集い、始業式が行われた。

この河東中学校は、人口の増加に伴い、生徒数が約千名を超えていた中央中学校の分離校として開校された。校区は河東地区である。同地区は城西ヶ丘団地、ひかりヶ丘団地、大きな団地をかかえている上、今後住宅開発が行われる可能性もあり、将来も人口増加が見込まれ、生徒数も年々増えるものと予測されている。

始業式は午前十時より、二百七十八名（三年 四九名、二年 二九名）の生徒と二十三名の教職員が参加し、真新しい同校体育館で行われ、今村校長先生の「新しい校舎を大切にしよう。中央中学校の分離校ではありますが、分校ではなく立派な新しい校風の樹立に努めよう」との話しや、教師との対面式などが行われた。又、八日には入学式が行われ、新入生一三三名が入学、三年生四クラス、二年生三クラス、一年生三クラスの計十クラスでスタートした。



三月二十九日、福岡県農業試験場園芸研究所々長吉武貞敏氏外二三名参拝 地元総代理並協力会春季大祭準備会 三月三十日、宗像大社菊花会理事會 三月三十一日、春季大祭総社地主祭、宵宮祭



宗像大社歌会  
俳句作品集(三七)

鐘崎 岩瀬 辰夫  
南縁を開ければ匂ふ沈下花

福岡 広渡一寿軒  
溪水のつばやく音や猫やなき

池田 小田しめ  
駄盆にも花を咲かせて別れ雪

田熊 安部 ゆき  
下崩えてひかる水輪や魚のかげ

津屋崎 西住喜三郎  
衰える船を忘れて青き踏む

香椎 板矢クニコ  
まゆあげて学徒わ銀杏の中を行く

藤沢 井上 玄洋  
波しぶき揚舟たたく春一番

四角 二宮 末子  
谷川の水めぐりて春の風

津屋崎 井浦 良介  
受験子へ妻気くはりの夜のラーメン

大井 吉田 杏子  
春潮のふくらみのぼる河広し

田熊 力丸 一郎  
春寒といふやはらかなき日さしかな

田島 有吉 唐水  
釣川の水めぐりて土筆伸ぶ



(続)

浜の奇物

7



いしいただし

島の間には橋  
ががかつてい  
りして、ヤシ、パ  
ナ、パイナップル等が  
ナ、パイナップル等が  
の道路を約四  
〇分ほど走  
たであらう  
か、舗装され  
ていない道路  
。今は雨期  
(季)なので  
が、雨が全然  
立派な家に住んでる。こ  
その被害も相  
当なものはし  
。伐採され  
たヤシ、電柱の  
たヤシを随分多  
車は猛烈な土ホ  
て走。服は真白  
た。車から見る  
大部分が高床式、  
ポホール島とパ  
ングラオ

潮時)に思わず声をあげ  
た。ココヤシの皮、そして  
丸いままのものもゴロゴロ  
して浜にある。宗像のヤシ  
の漂着する浜を想い出し  
た。  
翌朝、キリノ氏の兄の家  
に寄った。同じようにアン  
ティック類が多く集められ  
、陳列されている。その  
中で大要興味を覚えたの  
は、近くの教会を改修した  
時に、古い墓地进行する  
時、その人骨にイモガイを  
輪切りにした貝輪を装着し  
ていた。イモガイは、日本  
製の貝輪は、日本の弥生時  
代から発掘されるものと  
ほとんど変わりが無いもの  
であった。それから細市を  
のぞいて見た。簾を細く  
いて東にしたもの、大小の  
壺とカマドつきのものは、  
弥生式土器の簡単な素土  
味があり、筋の粗いもの  
もあり、イモガイの内外  
皮で作られたサジ類もあ  
る。壺とサジ類は是非買  
て帰して、バイク三人  
乗りで海岸に出る。海ぞい  
にヤシ、ヤシの木陰に舟  
(パンガ)が置いてある。横  
に積み重ねられた漁網があ  
る。  
ここからパンガという両  
側に木をすえた、小型の  
船に乗って、無人島のポ  
ート島へ渡った。船で三  
十分ほど、全長一〇〇メ  
ートル、巾五〇メートルほ  
どの低平な小さな島である。  
十数本のヤシ、アダンが少  
く、二ヶ所にヤシの葉で掛  
いた日除け小屋がある。  
こりあず島を一周して  
見た。ココヤシ、アダン、  
ホウガンヒルギと豆科の種  
子が漂着していた。玄界  
や日本の沿岸を埋めつく  
すニール、グラスチック  
はほとんどない。僅かにビ  
ニールのサンダルを丸く切  
りとり、両端に穴を穿つ  
て、浮子の代用とするも  
のがあったにすぎなかっ  
た。  
ここで面白い漂着物を見  
つけた。ココヤシの果実皮  
を半分にし、それに竹でそ  
え木をつけた、長さ一八セ  
ンチ、巾九・一センチの玩  
具の舟である。底には不  
具なビニールのサンダ  
ルを切って、竹クギでと  
め、美しい海である。コ  
シの果実皮と水分を吸う  
ために沈むからであろう。  
勿論、これは拾ってきた。  
美しい海であった。何  
か石のたぐらう。思っ  
て見過ぎているかもしれ  
ないが、実はその石こそ、  
上の金控礁なのである。  
所は、宗像四  
塚連山中の北  
端に位置する湯  
川山の西北山  
麓の辺りであ  
る。このあた  
りの海岸には  
古代の先住者  
の住居跡、墳  
墓、貝塚など  
があり、今で  
も石器、土器  
類、獸骨など  
が発見され  
る。この地統  
きの碑が置  
である。宗像  
御崎」と見て  
この土地から  
金の産出とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい

古代史探訪

宗像族の墓域を追う (16)

宮地嶽 古墳 津屋崎町字宮司

宮地嶽古墳の被葬者はい  
つた誰であったらうかと  
、考えられたりして久し  
い。壬申の乱(六七二年)  
では総大将として金軍を指  
揮し天武軍を大勝利に導  
き、持統四年(六九〇年)  
には最高位の太政大臣に任  
ぜられた。当時の中央政界  
のプリンスであった高市皇  
子の外祖父にあたる人物の  
墳墓と推定される。この人  
は神郡宗像の長を司る、族  
長「胸形君德善」の名がう  
かび上がってくる。ここに  
はどのような品々が古墳に

副葬されていたのか列記し  
てみる。  
▽武器  
金銅製頭椎大刀二口(う  
ち一口は復元長二・五メー  
ートルもある機刀である。他  
に類似をみない。)

金銅製鏡板一对(縁に  
珠文帯がめぐる心葉形で、  
内面を四区に区し、唐草  
文を肉彫に区別する。)

金銅製心葉形葉(型は  
ハート型であるが、現在は  
縁の珠文帯が残存している  
のみである。)

金銅製鏡板(前輪と後  
輪の覆輪部が現存してい  
るが、ともに流麗な唐草文  
化した竜文帯と、連華文帯  
とが施されている。)

金銅製鏡板(高台付の皿で  
径一六・四センチを計る鑄  
造品である。)

銅製冠(環・高杯・坩・  
土器  
須惠器(環・高杯・坩・  
土器(塊・坩)

蓋付銅鏡一口(脚合が  
いたワイングラス状のもの  
で、高さ一五・八センチあ  
る。)

銅製一口(高台付の皿で  
径一六・四センチを計る鑄  
造品である。)

金銅製鏡板(前輪と後  
輪の覆輪部が現存してい  
るが、ともに流麗な唐草文  
化した竜文帯と、連華文帯  
とが施されている。)

金銅製鏡板(高台付の皿で  
径一六・四センチを計る鑄  
造品である。)

銅製冠(環・高杯・坩・  
土器  
須惠器(環・高杯・坩・  
土器(塊・坩)

蓋付銅鏡一口(脚合が  
いたワイングラス状のもの  
で、高さ一五・八センチあ  
る。)

銅製一口(高台付の皿で  
径一六・四センチを計る鑄  
造品である。)

銅製一口(高台付の皿で  
径一六・四センチを計る鑄  
造品である。)

銅製一口(高台付の皿で  
径一六・四センチを計る鑄  
造品である。)

宗像むかし話

上八の金控礁

宗像大社社殿に向って左  
手奥に神室がある。高  
約六〇センチ、経約六〇  
センチの「金控礁」のある  
所に気付いている人はそ  
う沢山の多いという。何  
かの台のたぐらう。思っ  
て見過ぎているかもしれ  
ないが、実はその石こそ、  
上の金控礁なのである。  
所は、宗像四  
塚連山中の北  
端に位置する湯  
川山の西北山  
麓の辺りであ  
る。このあた  
りの海岸には  
古代の先住者  
の住居跡、墳  
墓、貝塚など  
があり、今で  
も石器、土器  
類、獸骨など  
が発見され  
る。この地統  
きの碑が置  
である。宗像  
御崎」と見て  
この土地から  
金の産出とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい



金銅製透彫冠残欠  
以上が昭和九年に前庭部を  
整備した際に、一括発見さ  
れた豪華な遺物である。  
次回から縄文時代前期、  
五五〇年前のココヤシが  
発掘された福井県員貝塚  
を歩いてみよう。  
このことについては、拙著  
「宗像の歴史」の一編  
として、今度、  
類、獸骨など  
が発見され  
る。この地統  
きの碑が置  
である。宗像  
御崎」と見て  
この土地から  
金の産出とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい  
う金産地とい